



## 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月5日

上場会社名 味の素株式会社  
 コード番号 2802 URL <http://www.aiinomoto.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長  
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月12日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

上場取引所 東大

(氏名) 伊藤 雅俊  
 (氏名) 小林 幸彦  
 配当支払開始予定日

TEL 03-5250-8161  
 平成24年12月4日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	598,860	△0.9	36,887	△13.4	39,257	△11.0	41,106	59.8
24年3月期第2四半期	604,110	△1.9	42,594	2.0	44,132	4.7	25,715	45.8

(注)包括利益 25年3月期第2四半期 18,301百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 △8,135百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	61.92	—
24年3月期第2四半期	37.52	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	1,029,838	629,442	56.9
24年3月期	1,097,057	650,159	55.2

(参考)自己資本 25年3月期第2四半期 585,962百万円 24年3月期 605,349百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
25年3月期	—	8.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,221,000	2.0	73,500	1.3	76,500	0.8	47,000	12.6	72.22

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

平成24年5月8日に公表しました平成25年3月期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「平成25年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規制」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	678,980,654 株	24年3月期	678,980,654 株
25年3月期2Q	30,600,502 株	24年3月期	2,298,309 株
25年3月期2Q	663,879,304 株	24年3月期2Q	685,476,618 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P4. 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は平成24年11月5日(月)に当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(5) セグメント情報等 .....	10
(6) 重要な後発事象 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年9月30日）における世界経済は、欧州債務危機による金融市場の不安、中国経済の成長率の鈍化等を背景に、全体として減速感が広がっており、弱い回復となっております。

わが国経済は、東日本大震災の復興需要等に支えられ緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、円高等の影響により今後の景気の回復は依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、緩やかなデフレの市況の中、依然として食品原料の価格が高い水準にあり、厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期を52億円下回る5,988億円（前年同期比99.1%）となり、利益面では、営業利益は前年同期を57億円下回る368億円（前年同期比86.6%）、経常利益は前年同期を48億円下回る392億円（前年同期比89.0%）となりましたが、厚生年金基金の代行返上益を特別利益として277億円計上したことにより、四半期純利益は前年同期を153億円上回る411億円（前年同期比159.8%）となりました。

セグメント別の概況

セグメント別の業績は、次のとおりです。

(億円)

	売上高	前期増減	前期比	営業利益	前期増減	前期比
国内食品	2,265	49	102.2%	172	△10	94.3%
海外食品	1,148	△1	99.9%	102	△13	88.4%
バイオ・ファイン	969	△17	98.3%	72	9	115.2%
医薬	359	△54	86.9%	18	△36	32.8%
提携事業	886	△21	97.6%	7	△0	95.9%
その他	360	△7	97.8%	△4	△5	—
合計	5,988	△52	99.1%	368	△57	86.6%

(注) 国内外の食品加工業向け「アクティバ®」類、天然系調味料および冷凍食品は、国内食品事業に区分されております。

## (国内食品事業)

国内食品事業の売上高は、調味料・加工食品や冷凍食品の売上げが伸びたため、前年同期を49億円上回る2,265億円（前年同期比102.2%）となりました。営業利益は、前第1四半期連結累計期間の販売費が震災の影響により抑えられていた反動もあり、前年同期を10億円下回る172億円（前年同期比94.3%）となりました。

## &lt;調味料・加工食品&gt;

家庭用調味料・加工食品につきましては、「Cook Do®」（クックドゥ）が大幅に売上げを拡大し、中華だし類の売上げも好調に推移しました。また、コンソメとマヨネーズ類の売上げは堅調に推移しました。クログ製品の売上げは前年同期並みとなりました。うま味調味料「味の素®」や「ほんだし®」の売上げは前年同期を下回り、スープ類の売上げも前年同期を下回りました。

業務用調味料・加工食品につきましては、調味料の新たな用途の提案など販売促進活動が奏功し、売上げは堅調に推移しました。食品加工業向けの食感や物性を向上させる食品用酵素製剤「アクティバ®」類の売上げは、国内の顧客による新規の採用が増加したこともあり、前年同期を上回り、天然系調味料の売上げも、前年同期をわずかに上回りました。

## &lt;デリカ・ベーカリー&gt;

弁当・惣菜等のデリカの売上げは堅調に推移し、ベーカリー製品の売上げは前年同期並みとなりました。

## &lt;冷凍食品&gt;

家庭用は「プリプリのエビシューマイ」および「やわらか若鶏から揚げ」の売上げは前年同期をやや下回りましたが、「具だくさん五目炒飯」が前年同期を大幅に上回ったこと、「ギョーザ」や「エビ寄せフライ」等の自然解凍により食べることのできる弁当用商品が好調に推移したことに加えて、昨年の震災後に休止していた一部商品の販売を

再開したこと等により、売上げは堅調に推移しました。業務用の売上げは前年並みとなりました。

<飲料>

主力製品の売上げが伸び、全体の売上げも堅調に推移しました。

(海外食品事業)

海外食品事業の売上高は、為替の影響を受けたものの、調味料や加工食品の売上げが伸び、前年同期並みの1,148億円(前年同期比99.9%)を確保しました。営業利益は、為替の影響等により、前年同期を13億円下回る102億円(前年同期比88.4%)となりました。

<調味料>

アジアでは、「味の素®」と風味調味料の販売が伸びたため、売上げは堅調に推移しました。米州では、南米における風味調味料の売上げが為替の影響により前年同期を下回り、全体としても前年同期をわずかに下回りました。欧州・アフリカでは、西アフリカ諸国における「味の素®」の売上げは前年同期を下回ったものの、全体として売上げは前年同期並みとなりました。

<加工食品>

アジアでは、粉末飲料「Birdy® 3in1」(バーディ スリーインワン)、缶コーヒー「Birdy®」(バーディ)等の飲料の売上げは前年同期を上回り、即席麺は順調に売上げを伸ばしました。

<加工用うま味調味料>

国内では、核酸は昨年の震災により落ち込んだ販売数量が回復し、順調に売上げが伸長しましたが、食品加工業向け「味の素®」は販売価格を引き上げたものの販売数量が減少したことにより、前年同期の売上げを下回りました。海外では、核酸はアジアを中心に販売数量が増加し、売上げは前年同期を大きく上回りましたが、食品加工業向け「味の素®」は、為替の影響に加え、競合会社の輸出増加で販売数量が減少したことの影響により、売上げは前年同期を大きく下回りました。

(バイオ・ファイン事業)

バイオ・ファイン事業の売上高は、前年同期を17億円下回る969億円(前年同期比98.3%)、営業利益は、前年同期を9億円上回る72億円(前年同期比115.2%)となりました。

<飼料用アミノ酸>

為替の影響を受けるとともに、リジン、スレオニン、トリプトファンとも販売価格は前年を下回りましたが、リジンの販売数量が前年同期を上回り、トリプトファンについても前年同期を大きく上回ったため、全体として売上げは前年同期をやや上回りました。

<医薬用・食品用アミノ酸>

国内では、前年同期の売上げをわずかに下回りました。海外では、為替の影響により欧州での売上げが前年同期をわずかに下回りましたが、北米では上回り、全体としても前年同期をわずかに上回りました。

<甘味料>

国内家庭用・外食市場向けの低カロリー甘味料の売上げは堅調に推移しましたが、加工用の甘味料アスパルテームの売上げは、販売数量が前年同期を下回るとともに為替の影響も受け前年同期を下回りました。南米におけるアスパルテームを使用した粉末ジュース「Refresco MID®」(リフレスコミッド)の販売は順調に推移したものの、売上げは為替の影響を受け前年同期を下回りました。

<医薬中間体>

為替の影響等で欧州での売上げが前年同期を大きく下回り、全体としても大きく下回りました。

<化成品>

化粧品原料の売上げは、国内、海外とも前年同期を下回りました。アミノ酸化粧品「Jino®」(ジーノ)は、前年同期を下回りました。コンピュータ用の層間絶縁フィルムは、前年同期を上回りました。

(医薬事業)

医薬事業の売上高は前年同期を54億円下回る359億円(前年同期比86.9%)、営業利益は前年同期を36億円下回る18億円(前年同期比32.8%)となりました。自社販売製品の売上げは薬価改定の影響を受けつつも、導入品の寄与もあり、前年同期並みとなりましたが、提携販売品については薬価改定、競合品の影響およびロイヤルティの収入減等により前年同期を大きく下回り、全体としても前年同期を下回りました。営業利益も売上げが減少したため、前年同期を大幅に下回りました。

自社販売製品では、肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤「リーバクト®」の売上げは前年同期並みでしたが、電解質輸液「ソリタ®-T」等の輸液類は前年同期を下回り、成分栄養剤「エレンタール®」も前年同期を下回りました。

提携販売品では、糖尿病治療薬「ファスティック®」等のナテグリニド類の売上げが前年同期を大幅に上回りましたが、カルシウム拮抗降圧剤「アテレック®」等のシルニジピン類や骨粗鬆症治療剤「アクトネル®」等のリセドロネー

ト類の売上げは前年同期を大幅に下回りました。

(提携事業)

提携事業の売上高は、前年同期を21億円下回る886億円(前年同期比97.6%)、営業利益は、前年同期を33百万円下回る7億円(前年同期比95.9%)となりました。

<油脂>

販売数量は前年同期並みを確保したものの、販売価格が下がったこと等により、前年同期の売上げを下回りました。

<コーヒー>

売上げは前年同期をわずかに下回りました。

(その他)

その他事業の売上高は、前年同期を7億円下回る360億円(前年同期比97.8%)となり、4億円の営業損失となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末の総資産は、前期末の1兆970億円に対して672億円減少し、1兆298億円となりました。これは主として、自己株式の取得による現金及び預金の減少や在外子会社の貸借対照表の円貨への換算額が減少したことによるものです。

負債残高は、前期末の4,468億円に対して465億円減少し、4,003億円となりました。これは主として味の素厚生年金基金における、厚生年金基金代行部分の過去分の返上により、退職給付引当金が減少したことによるものです。また、有利子負債残高は、前期末に対して84億円減少し、1,215億円となりました。

純資産は、利益剰余金は増加したものの、自己株式の取得や為替換算調整勘定の変動等から、前期末に対して207億円減少しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は、5,859億円となり、自己資本比率は56.9%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間における直近の業績の進捗を踏まえ、業績予想の見直しを行った結果、平成24年5月8日に公表しました業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日発表の「平成25年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

当社及び連結子会社は、税金費用については、当第2四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### （減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	149,913	88,521
受取手形及び売掛金	206,952	206,501
有価証券	414	1,090
商品及び製品	96,855	98,884
仕掛品	7,960	8,136
原材料及び貯蔵品	42,842	43,220
繰延税金資産	8,329	8,835
その他	30,282	39,319
貸倒引当金	△1,173	△1,038
流動資産合計	542,375	493,473
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	350,782	344,425
減価償却累計額及び減損損失累計額	△213,132	△211,208
建物及び構築物（純額）	137,649	133,217
機械装置及び運搬具	508,031	496,313
減価償却累計額及び減損損失累計額	△392,678	△386,159
機械装置及び運搬具（純額）	115,352	110,153
土地	96,139	97,460
建設仮勘定	26,598	25,514
その他	71,837	71,456
減価償却累計額及び減損損失累計額	△58,893	△59,170
その他（純額）	12,944	12,286
有形固定資産合計	388,683	378,632
無形固定資産		
のれん	25,080	23,370
その他	34,107	32,752
無形固定資産合計	59,188	56,122
投資その他の資産		
投資有価証券	84,491	83,054
長期貸付金	1,057	968
繰延税金資産	7,796	5,669
その他	14,723	13,193
貸倒引当金	△789	△711
投資損失引当金	△470	△565
投資その他の資産合計	106,808	101,609
固定資産合計	554,681	536,364
資産合計	1,097,057	1,029,838



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,965	111,464
短期借入金	17,790	12,206
1年内償還予定の社債	—	20,000
1年内返済予定の長期借入金	4,406	3,673
未払法人税等	9,465	2,269
賞与引当金	6,896	6,023
役員賞与引当金	357	209
資産除去債務	—	0
その他	87,572	83,025
流動負債合計	239,455	238,871
固定負債		
社債	69,990	49,991
長期借入金	34,847	33,142
繰延税金負債	14,786	23,345
退職給付引当金	62,962	31,149
役員退職慰労引当金	1,016	758
環境対策引当金	506	481
資産除去債務	584	597
その他	22,747	22,057
固定負債合計	207,442	161,524
負債合計	446,897	400,395
純資産の部		
株主資本		
資本金	79,863	79,863
資本剰余金	162,381	162,381
利益剰余金	444,728	480,378
自己株式	△2,219	△33,782
株主資本合計	684,755	688,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,678	3,152
繰延ヘッジ損益	△1	△36
為替換算調整勘定	△81,603	△105,543
在外子会社の年金負債調整額	△478	△452
その他の包括利益累計額合計	△79,405	△102,880
少数株主持分	44,809	43,480
純資産合計	650,159	629,442
負債純資産合計	1,097,057	1,029,838

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	604,110	598,860
売上原価	397,286	394,561
売上総利益	206,823	204,298
販売費及び一般管理費	164,229	167,410
営業利益	42,594	36,887
営業外収益		
受取利息	904	847
受取配当金	562	666
持分法による投資利益	1,048	1,311
その他	1,494	1,311
営業外収益合計	4,010	4,137
営業外費用		
支払利息	1,087	1,021
その他	1,385	745
営業外費用合計	2,472	1,767
経常利益	44,132	39,257
特別利益		
厚生年金基金代行返上益	—	27,752
その他	515	1,455
特別利益合計	515	29,208
特別損失		
投資有価証券評価損	9	2,704
その他	3,443	1,755
特別損失合計	3,452	4,459
税金等調整前四半期純利益	41,195	64,005
法人税等	12,458	19,714
少数株主損益調整前四半期純利益	28,737	44,291
少数株主利益	3,021	3,185
四半期純利益	25,715	41,106

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	28,737	44,291
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△424	533
繰延ヘッジ損益	△46	16
為替換算調整勘定	△35,370	△25,649
在外子会社の年金負債調整額	58	26
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,088	△917
その他の包括利益合計	△36,872	△25,989
四半期包括利益	△8,135	18,301
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△7,461	17,631
少数株主に係る四半期包括利益	△673	669

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年5月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。これを受け、信託方式による市場買付の方法により平成24年5月9日から平成24年9月30日までに普通株式28,144,000株、31,388百万円の取得を行いました。

## (5) セグメント情報等

## I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	221,539	114,976	98,630	41,344	90,808	36,811	—	604,110
セグメント間の内部売上高	2,953	3,698	2,580	52	139	33,553	△42,977	—
計	224,493	118,674	101,210	41,397	90,947	70,364	△42,977	604,110
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	18,327	11,591	6,309	5,494	810	61	—	42,594

(注) 「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

## 2. 地域に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	401,758	99,968	58,977	43,404	604,110
連結売上高に占める比率	66.5%	16.5%	9.8%	7.2%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	226,515	114,832	96,922	35,926	88,650	36,011	—	598,860
セグメント間の内部売上高	4,577	3,362	3,369	46	148	29,729	△41,234	
計	231,093	118,195	100,292	35,973	88,799	65,741	△41,234	598,860
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	17,279	10,249	7,268	1,801	777	△487	—	36,887

(注) 「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

## 2. 地域に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	398,360	99,846	58,199	42,453	598,860
連結売上高に占める比率	66.5%	16.7%	9.7%	7.1%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

(参考情報)

所在地別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	413,106	89,207	57,790	44,005	604,110
営業利益	23,760	11,486	3,764	3,583	42,594

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	408,936	91,963	55,840	42,119	598,860
営業利益	18,488	11,490	4,711	2,197	36,887

(注) 1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

(注) 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア: 東アジア及び東南アジア諸国

米州: 北米及び南米諸国

欧州: ヨーロッパ及びアフリカ諸国

## (6) 重要な後発事象

当社は、平成24年5月8日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるカルピス株式会社(開示内閣府令第19条第10項に定める特定子会社に該当)の全株式をアサヒグループホールディングス株式会社(以下、アサヒGH社)に譲渡することを決議し、同日付けで同社との間で株式譲渡契約書を締結しました。

本契約に基づき、当社は、平成24年10月1日に、当社が保有するカルピス株式会社の全株式をアサヒGH社へ譲渡しました。

## &lt;株式譲渡の理由&gt;

当社は、2011-2013年中期経営計画において、コア事業領域である「調味料・食品」と「先端バイオ・ファイン」関連に経営資源を集中し、事業の「成長と構造強化」を推進し、「確かなグローバルカンパニー」になることに向かっています。

カルピス社は、1917年に設立され、「カルピス®」に代表される日本初の乳酸菌飲料を基軸とした事業展開を行っております。

当社は、1990年に、カルピス社の筆頭株主となり、2007年10月に同社の発行済み株式の100%を取得し経営統合をおこない、飲料事業の海外展開の加速、調達・物流等の機能部門のシナジーを図りながら業容を拡大してまいりました。

このような中、当社は、2012年1月アサヒGH社からカルピス社株式譲渡についての正式提案を受け検討に入りました。

アサヒGH社は、飲料事業をグループの中核事業として成長を図り、その中でカルピス社を重要な柱として拡大させたいとし、また同社の90年以上にわたる企業文化、「カルピス®」ブランド、乳酸菌・微生物活用技術、そして人材を高く評価しております。更には、カルピス社はかねてより、アサヒGH社傘下のアサヒ飲料株式会社と自販機飲料事業を共同で行っており、相互の信頼関係を築いてきております。

このような背景を踏まえ、当社は、アサヒGH社へのカルピス社株式譲渡が、当社のコア事業に集中する経営計画の実現と、カルピス社の更なる長期的成長に合致すると判断し、同社の株式を譲渡することと致しました。

## &lt;当該会社の概要&gt;

- ① 会社名 カルピス株式会社  
② 発行済株式総数 73,936,871株

- ③ 事業内容 飲料、健康機能性飲料・食品、乳製品、酒類、飼料添加物等の製造及び販売ならびに  
その他の事業活動

<当社と当該会社の取引概要>

当社による当該会社の製品の購入及び販売、当社による当該会社の原材料の共同購入及び供給

<当該会社株式譲渡の概要>

① 株式譲渡日 平成24年10月1日

② 譲渡株式数 73,936,871株(保有全株式)

③ 譲渡価額 1,217億円 (\*)

(\*) 当該金額は平成24年9月にカルピス社が当社に対して行なった剰余金の配当270億円を  
含んでおります。

④ 譲渡後の持分比率 ー%

<セグメント情報の開示において当該会社が含まれる区分の名称> 国内食品事業